令和５年７月臨時教育委員会会議録

令和５年７月２７日　臨時熊谷市教育委員会を大里行政センター２階第３会議室に招集する。

○　出席者
　野原　　晃、松島　佳代子、加藤　道子、大石　聡一、小林　敏宏
○　出席事務局
　教育次長　　権田　宣行
　参事兼学校教育課長　　中谷　樹
　教育総務課長　　長谷川　和博
　社会教育課長　　原　光則
　教育総務課主事　　浅見　柚妃

○　令和５年度第１７採択地区教科書選定委員会委員長及び委員

９時００分　臨時教育委員会開会

教育長から、令和５年７月臨時熊谷市教育委員会の開会が宣言があり、傍聴希望者１４名の入室が許可され、本会議の会議録の署名人には、小林委員が指名された。
教育長から、議案第３４号の採決部分は非公開としたい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議されることに決定した。

日程（議案第３４号）令和６年度使用小学校用教科書（特別の教科　道徳を含む）の採択について
教育長から、議案第３４号について、一括して説明するよう発言があり、事務局等から、以下のとおり説明があった。

○事務局
本議案は、令和６年度から熊谷市立小学校で使用する教科用図書の採択をお願いするものである。
教科書の採択については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２１条第６号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第１３条により、埼玉県教育委員会の指導助言の下、本市教育委員会で行うこととされていることから、教科書の採択を行うもので、今年度採択する教科書は、特別の教科 道徳を含む小学校用教科書である。

本日までに教科書調査研究専門員会による研究、学校研究及び教科書展示会アンケートを基に、教科書選定委員会において、全ての教科書について協議・検討を重ねてきた。

本日の協議では、各種目の担当の選定委員から、これまでの協議、検討を基に、本市の小学校で使用する教科書について推薦を行い、教育委員会委員の皆様には、選定委員からの推薦について、協議を行っていただき、協議終了後、議案第３４号について採決をお願いするものである。

○教育長

小学校用教科書「国語」について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、３社ある「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書」のうち、「教育出版」、「光村図書」の２社を推薦する。

「教育出版」は、学習の系統性を意識し、全単元にその単元の学習の「めあて」や学習の手立てを示しており、「ここが大事」を設定することで、学習の重点を示す工夫をしており、各単元の初めに「見通しをもとう」、終わりに「ふり返ろう」を示し、主体的な学びを促している。学習内容の明確化を目指し、「読むこと」では「学習のてびき」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」では「学習の進め方」を示している。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、日常生活に関連した題材が設定され、児童の実際の生活に結び付いた活動になるような工夫がされている。

小学校国語科の目標には、「日常生活に必要な国語について」や「日常生活における人との関わりの中で」とあり、日常生活の中に生きて働く言語の力を身に付けることが求められている。例えば、「話すこと・聞くこと」では、日常生活や学校生活に関連した場を設定し、児童の実際の生活に結び付いた活動としており、日常生活の中に生きる伝統的な言語文化の存在を感じられるように、言葉遊び、ことわざや慣用句、古典文学など、学年に応じて教材が配置されている。言語能力を育成する国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成するため、児童が日常生活とのつながりを強く意識できる言語活動が設定されている教科書を使用することが、質の高い授業へとつながると考えている。

「教育出版社」は、現在使用している教科書であり、現在の学びを継続しながら言語の力を高めることができる。

「光村図書」は、学びの系統性について単元の扉の「これまでの学習」、教材の初めの「確かめよう」を示し、これまでどの教材でどのような学習をしてきたか具体的に振り返ることができる工夫をしている。各単元の初めに見通しを持つために「問いをもとう」「目標」を示し、終わりに「ふりかえろう」を示しており、特に見通しについて「問い」をきっかけとした主体的な学びへ導こうとしている。

「光村図書」の特長として、「読むこと」では、それぞれの小単元での学びを活用して大単元の学習に臨むように単元を配置しており、小単元でモデル学習をし、大単元を読み取ることができるようにしている。

新熊谷プロジェクトとの関わりについては、国語科で身に付けた資質・能力を生かして、教科横断的に資質・能力を伸ばせるように話題や題材、学習活動を工夫している。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は「教育出版」で、現在使用している教科書であり、学習の系統性を意識し、全単元にその単元の学習の「めあて」や学習の手立てを示しているとともに、日常生活に関連した題材が設定され、児童の実際の生活に結び付いた活動になるような工夫がされている。

次点は、「光村図書」である。

【質疑応答】

○委員

「学力日本一」を目指す本市として、知識・技能や思考力、判断力、表現力等が確実に身に付く教科書はどれか。

○選定委員

どの教科書も、系統性を踏まえ、教材やその配置、単元の学習過程等を工夫している。「書くこと」を例にすると、中でも「教育出版」の特徴は、４月の導入教材として、カード・メモの活用、ノート指導、日記などの短時間の活動を取り上げ、日常的に行えるようにしている。

また、１年と３年の「手紙」や４年の「新聞」、５年の「ポスター」、６年の「パンフレット」などの各活動において、話題・題材を幅広く選定し、様々な場面で活用できるように工夫している。児童の実際の生活に、学んだ事を活用しやすくすることで、確かな学力となると考える。

○委員

国語科では、読書指導も重要と考えるが、読書に関する内容が充実している教科書はどれか。

○選定委員

どの教科書も、読書に親しむための工夫がされている。「光村図書」では、巻末の付録にテーマごとに多様な図書を紹介したり、「東京書籍」では、学習の手引きの最後に関連する話題・内容の本などを取り上げて紹介したりしている。教育出版の特徴は、図書の紹介があり、さらに、読書経験の交流や表現活動を中心とした読書単元を設定している。これらの活動を通して、読書の広がりや深まりが促されると考える。

○教育長

国語については、第一順位「教育出版」、次点「光村図書」との推薦があった。

これらを参考に採決することでよろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、書写について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、３社ある「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書」のうち、「教育出版」、「光村図書」の２社を推薦する。

「東京書籍」は、「知識及び技能」が習得されるようにするため、３年生以上の教材に「ここが大切」のコーナーが設定されており、「めあて」に対しての答えとなっている。「生かそう」のコーナーでは、毛筆で学習したことを硬筆で生かせるように工夫されており、硬筆で「ためし書き」をした後、主教材となる毛筆の練習をして、原理・原則を理解し、最後に「まとめ書き」で確認できるようになっている。「ためし書き」で自分の課題に気づき、２つを比較して振り返ることができようになっている。

また、基本の筆使いがしっかりと身に付くよう、ほぼ全ての教材に、穂先の通り道を朱墨で明快に示された図版が掲載されている。大変丁寧な解説が付いており、筆使い、筆圧、運筆リズムについて、学習指導要領に示されている「適切に運筆する能力」を児童が主体的に身に付けられるだけでなく、教員の指導力向上にもなると考えられる。

また、学びの姿勢を作る、身体や指を動かしてスムーズにする体操をどの出版社でも取り上げているが、「教育出版」は、「はらい」などの基本点画の動きを楽しみながら身に付けられる体裁になっており、「めあて」に対しての学習内容が自力学習に生かせるように明記されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、日常生活や学習活動における「生きてはたらく書写力」が育成できるように、「レッツトライ」「書いて伝え合おう」のページを設け、各教科と関連した学びができる教材を取り入れている。

さらに、伝える相手、「相手意識」や書く目的、「目的意識」を常に意識させるようにしている。

「光村図書」は、知識及び技能が習得されるようにするため、２年生以上の全教材に学習のポイントや字を書く時の基礎・基本が言葉や視覚を通してひと目で分かるよう工夫されている。

また、学習のねらいに即して、自らの知識・技能の習得が確認できるよう、全教材の最後に１年生には、「できたかな」、２年生以上には「ふり返ろう」の設定や、学習した書写の言葉を空欄に書き込んで振り返るコーナー等において、スパイラルで学びが習得されるよう工夫されている。

次に、「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、書写での学びが、各教科や日常生活に広がるよう、関連教材「書写広げたい」を各学年に配置し、教科横断的な学習が充実するよう工夫されている。

国語の教科書に載っている書く活動や伝統的言語文化に連動した教材を全学年に配置しており、国語の学習内容と一体的に学習を進めることができようになっている。

また、２年生以上でSDGsコーナーが設けられており、今日的な課題についても対応している。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は「教育出版」で、現在使用している教科書であるとともに、毛筆で学習したことを硬筆で生かせるように工夫がされていることや、伝える相手、「相手意識」や書く目的、「目的意識」を常に意識させるようにしている。

次点は、「光村図書」である。

【質疑応答】

〇委員

熊谷教育、「新熊谷プロジェクト」の目指す「オーセンティックな学び」を、教育出版の教科書によって、どう実現されるのか。

〇選定委員

いずれの教科書も書写での学びが、各教科や日常生活に広がるよう、また、教科横断的な学習が充実するよう工夫されている。中でも、群を抜いているのは「教育出版」で、書いて伝え合う活動、対話的な活動を大切にしている。自分と言葉や文字をつなげ、相手を意識して文字を書き、その文字を通して自分と他者、さらには、自分と社会がつながるようになっている。豊かなコミュニケーション能力、協働して課題を解決しようとする意欲は、生涯にわたって学び続けるための土台となる力であり、単に知識の習得にとどまらず、活用、つまり生きて働く力を身に付けられる「オーセンティックな学び」を実現できると考える。

さらに付け加えれば、全ての教材において、様々なキャラクターが吹き出しによって問いかけたり、答えてくれたり、ポイントをアドバイスしてくれたりして、学び手に寄り添い、かまってくれる。

また、吹き出しによって、書き手の思いを追体験することができる。

つまり、ラウンドシステムの考え方を土台とした　「１０のポイント」が教科書との対話によって実現されると考える。

〇委員

手書きの良さ、書く楽しさを伝えている教科書はどれか。

〇選定委員

いずれの教科書も、手書きの普遍的な価値を伝えているが、手書きの豊かさ、相

手へ思いを書いて伝えること、書写を学習する必要感まで踏み込んで、詳しく説明しているのは「教育出版」の教科書だと考える。

〇教育長

書写については、第一順位「教育出版」、次点「光村図書」との推薦があった。

これらを参考に採決することでよいか。

〇委員一同

異議なし。

〇教育長

次に、社会について説明を求める。

〇選定委員

選定委員会としては、３社ある「東京書籍」、「教育出版」、「日本文教出版」のうち、「東京書籍」と「教育出版」の２社を推薦する。

「東京書籍」は、 主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」学習過程に沿って、問題解決的な学習を分かりやすく進められるよう「学習の進め方」を示している。

また、「いかす」においては、自分の事として社会への関り方を選択・判断できるようにしている。知識・技能を習得できるよう、学習上重要なキーワードを「ことば」として明示し、学習内容の確実な習得に役立てたり、「まなび方コーナー」を設けたり、学習技能を系統的に習得できるようになっている。どの単元にも、ＱＲコードが付いており、学習に使用できるよう動画が用意されている。

また、ワークシート等もＱＲコードからダウンロードできるようになっているため、学習のねらいに即した学習効果が期待できる。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、教科関連マークが多数記載されており、他教科との関連性が各学年で明確に位置づけられている。

「教育出版」は、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習が進められるように資料や提示の仕方が工夫され、資料の読み取りに際して、働かせるべき視点や考え方の示唆が子供のキャラクターの吹き出しに丁寧に示されている。

知識・技能を習得できるようキーワードや用語の解説が記載されているため、児童の調べ学習や確認で活用することができ、また、「まとめる」の段階で語句の振り返りを促し、学習内容の定着が図れるようになっている。

写真資料は、タイトルが具体的なものが多く、タイトルの下に説明が入っているものが多くあり、６学年の歴史の単元では、当時の写真がカラーとなっていて、非常に見やすく資料から情報を読み取りやすくなっている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、全体として、教科ならではの「見方・考え方」を明確に一貫させて編集されており、他教科との横断的なカリキュラ

ムが立案しやすくなっている。
　本市に最もふさわしいと思われる教科書は「東京書籍」で、現在使用している教科書であり、単元ごとに学習段階を示し、問題解決的な学習を促すよう工夫されているとともに、側注の問い・資料で、資料の見方、読み取り方を示し、全学年を通じて社会的事象の見方・考え方を働かせ、考察できるように配慮されている。
　次点は、「教育出版」である。
【質疑応答】
○委員
　最もふさわしいのが「東京書籍」とのことだが、次点の「教育出版」と「日本文教出版」との違いは何か。
○選定委員
　問題解決的な学習で「教育出版」は、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」となっているが、「日本文教出版」は、「問題発見」「水球・解決」「まとめ」であり、「つなげる」の学習過程で生活に生かすことが弱いと考えられる。
○委員
　「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」の学習段階をたどりながら、社会科の問題解決的な学習を分かりやすく進めていくことができるとのことだが、他の教科書にも同じような問題解決的な学習が行えるような工夫があると思われるが、なぜ「東京書籍」が良いのか。
○選定委員
　どの教科書も、教師・児童共に問題解決的な学習が分かりやすく進められるような工夫や学習過程となっている。表記による違いでは、「東京書籍」は、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」となっていて、「教育出版」は、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」、「日本文教出版」は、「問題発見」、「追求・解決」、「まとめ」となっている。
　特に、「東京書籍」は、「まとめる」や「いかす」の場面で、児童の意欲が高まるような活動が例示されていたり、多様な活動を取り入れたりするところが良いと考える。
○教育長
　社会については、第一順位「東京書籍」、次点「教育出版」との推薦があった。
　これらを参考に採決することでよいか。
○委員一同
　異議なし。

○教育長
　次に、地図帳について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、２社ある「東京書籍」、「帝国書院」のうち、「帝国書院」、「東京書籍」の２社を推薦する。

「帝国書院」は、「地図マスターへの道」を掲載し、児童が主体的に知的好奇心を持ちながら、段階的に地図活用能力や知識を身に付けられるよう工夫がされている。知識・技能が習得できるよう地図の概念や地図記号などの地図の約束、記号凡例などの使い方が巻頭にまとめられていることで、児童が理解の定着を確認しながら基礎的・基本的な技能を学ぶことができるよう工夫されている。

全編を通して、ＱＲコードから動画やクイズ、アニメーション、ＶＲなどのコンテンツを閲覧することができ、授業の補助、家庭での自主学習に活用できるようになっている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、世界の主要な国名や首都名などに英語表記が付記されており、外国語活動、外国語の学習で活用できる構成になっている。

また、イラストに国語科や音楽科に関する特別な凡例が設けられている。

「東京書籍」は、学習内容に沿った主題図を大きく表現し、ページごとに学習のねらいを明確にしており、ＱＲコードを用いてデジタルコンテンツを設置し、学びを生活や社会に生かそうと意識を高める構成となっている。

また、知識・技能が習得できるよう、「地図のきまり」や「地図帳の使い方」が漫画形式で掲載され、児童が理解の定着を図りながら、主体的に基礎的・基本的な技能を学ぶことができるよう工夫されており、登場するキャラクターが児童の言葉で地図の見方などを示唆することで、児童が自ら考え学習できるようになっている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、日本の特色ある料理などの食文化をテーマにした地図や民族衣装などの世界の文化に関連したイラストから、家庭科の学習と関連付けて学ぶことができるようになっている。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は、「帝国書院」で、現在使用している教科書であるとともに、地図を使って社会的な見方考え方を働かせるよう地図を見る視点を示したり、活用を促したりするキャラクターを適宜配置しているなどの工夫が見られ、児童が意欲的に地図に興味を持ち、学習できるようになっている。

次点は、「東京書籍」である。

【質疑応答】

○委員

地図の約束や使い方について、２社ともに基本的な読み方など詳しく説明されて示されているが、児童が地図を初めて学ぶ上で、地図の読み取りや見方等の基礎・基本を確実に習得できるようになっているか。

○選定委員

「帝国書院」では、「地図マスターへの道」を、「東京書籍」では「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」を随所に設置し、課題に応じて作業的な活動をさせる、地図理解を深めたりするための詳しい解説があり、基礎・基本の習得を確実に学べる等の工夫がされている。特に「帝国書院」においては、「問い」を用いて地図に対する興味関心を引き付け、地図活用能力や知識が身に付けられるよう工夫がされている。

○委員

２社ともにＩＣＴ端末を用いて、学習が深められるように様々なコンテンツが入ったＱＲコードが適所に設けられているが、違いはどのようなものか。

○選定委員

「帝国書院」については、クイズ、アニメーション、ＶＲなどにより、児童が楽しみながら学習できるよう工夫されている。「東京書籍」については、都道府県別の地図、ドローン動画、クイズ等により視覚による地図学習を意識した工夫がされている。特に「帝国書院」においては、児童の興味を引き付けるようなアニメーション等を用いて、学校の授業だけでなく家庭での自主学習にも活用できるよう工夫されている。

○教育長

地図については、第一順位「帝国書院」、次点「東京書籍」との推薦があった。

これらを参考に採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、算数について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては６社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「啓林館」、「日本文教出版」のうち、「東京書籍」と「啓林館」の２社を推薦する。

「東京書籍」は、知識・技能を習得するため、問題解決型の授業を想定した構成・展開を重視している。また、補充問題で個に応じた学びを深めることができたり、作図や数直線の書き方などが段階的に示されたりしており、個に応じたペースで技能を身に付けられる工夫がある。

思考力・判断力・表現力を育成するため、既習の内容を基に解決の方法を考えたり、自分の考えと他者の考えとを比較検討したり、あえて不完全な考えを取り上げたりするなど、思考力・判断力・表現力が伸ばせるような配慮がされている。

各単元内では、考え方の助けとなる「同じように考えると」や、理解を深める「それなら」、「次は？」などの段階を踏んで教科書が展開されており、児童が学び方を学びながら、学習を進められるように工夫されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、「算数で読みとこう」を設け、現代的な教育課題や社会課題への取り組みにつながるような題材を取り入れられ、その各テーマが SDGs のゴールのどれに当てはまるかも示し、目的を持って教科横断的な学習に取り組めるようにとの意図が読み取れる。

「啓林館」は、知識・技能を習得するため、協働的な学びと、個別最適な学びを両立するための練習や復習コーナーを設けていて、個に応じた支援がしやすい作りとなっている。単元の始めに「これから学習することのめあて」、各時間にも「めあて」が載っているので、児童が学習に対して見通し持てるような工夫がある。

また、全ての時間で「めあて」に対応した「まとめ」も示されており、主発問と学習内容が正対するように作られている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、１年生では、「かぞえかた」で国語との関連があり、４年生の「折れ線グラフ」では温度計の目盛りの見方を意識させる理科との関連が明確に示されているなど、教科横断的な学習ができる題材を取り上げている。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は「東京書籍」で、現在使用している教科書であるとともに、問題解決型を意識し自分達の力で課題を解決することができる作りとなっている。

また、経験の浅い教師にとっても、授業で児童の考える力を育てるための授業が組み立てやすくできる作りになっていると考えられる。

次点は、「啓林館」である。

【質疑応答】

〇委員

問題解決型の授業展開ができるよう、東京書籍の教科書が良いとの説明があったが、どの教科書でも、どの教員でもそのような展開が可能なのではないか。

〇選定委員

どの教科書でも問題解決型の授業を進める事が可能な作りになっている。

特に、東京書籍はページ割りを工夫し、子供たちの思考の流れに沿って授業が進められるよう配慮されている点が、教科書を使う側も学ぶ側も思考しやすい作りとなっている。

また、単元プロローグで生活経験の差を埋め、何を学ぶのかをはっきりさせた上で問題解決の学習に入れるよう工夫されている。

〇委員

「教科横断的でオーセンティックな授業」を目指す本市として、基礎的・基本的

な知識・技能が確実に身に付き、本物の実践に近づけた学びが展開できるよう配慮されている教科書はどれか。

〇選定委員

どの教科書も、現実社会の出来事や世界の環境問題を取り上げた紙面作りとなっている。その中で東京書籍は、特に単元に入る前のプロローグのページが充実し、生活の中から見出せる算数の場面が写真等で示されている。

また、単元の終わりには「いかしてみよう」コーナーがあり、学びが生活に生きる場面についての問題が提示されている。

さらに学び進めたい時には、追加練習というデジタルコンテンツも用意され、学びの場が広がり、深まる工夫が見られる。

また、「思考力・判断力・表現力」、「主体的、対話的で深い学び」に向けての問題も大変充実している。

〇教育長

算数については、第一順位「東京書籍」、次点「啓林館」との推薦があった。

これらを参考に採決することでよいか。

〇委員一同

異議なし。

〇教育長

次に、理科について説明を求める。

〇選定委員

選定委員会としては、６社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「信州教育出版」、「啓林館」のうち、「教育出版」と「大日本図書」の２社を推薦する。

「教育出版」は、資質・能力を育成する過程で、児童が「見方・考え方」を働かせられるように、子供たちが交流する考えや言葉の中に「考え方のカギ」や「見方のカギ」が強調されている。問題解決の過程では、初めに「見つけよう」を位置づけ、児童の思考の流れを大切にしながら問題提示につなげている。

また、学年ごとに重視する問題解決の過程を強調することで、「理科の考え方」を働かせて資質・能力の育成につなげようとしている。

６年生「プログラムの利用」では、５ページを割き、プログラミング用アプリ「スクラッチ型のプログラムメイクコード」を使った学習が紹介されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、各学年の巻頭近くに「国語で学んだことを生かそう」というページが設けられていたり、算数の授業でも学習する内容が、「算数とのつながり」というページにまとめられていたりする。日常生活との関連では、「学びを広げよう」「科学のまど」というコーナーを設け、学習内容と

のつながりが詳しくまとめられている。

「大日本図書」は、資質・能力を育成する過程で、児童が「見方・考え方」を働かせられるように「ココに注目」として博士キャラクターの言葉を示している。

問題を提示する前に「問題を見つけよう」を位置づけ、児童の思考の流れを大切にしながら問題提示につなげられている。単元の終わりに「深めよう」や「りかのたまてばこ」、「サイエンスワールド」のページがあり、発展的な内容に取り組めるような工夫がされている。「りかのたまてばこ」では、科学技術や環境、理科に関係する仕事なども紹介し、理科への興味・関心を高められるようになっている。

６年生「プログラミングを体験してみよう」では、同様に５ページを割き、プログラミング的思考を育てる内容になっている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、「ほかの教科ともつなげよう」というコーナーがあり、どの教科とつながるか分かりやすくなっている。

単元末に「学んだことを生かそう」というページがあり、学習した内容を日常生活の中で活用できるような問題が出されている。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は「教育出版」で、現在使用している教科書であるとともに、新学習指導要領において、育成すべき資質・能力を身に付けるために、子供たちの考えを交流する吹き出しの中に「見方のカギ」「考え方のカギ」というように、その学年・単元で大切にする見方・考え方が強調されており、問題解決の過程で児童が意識できるように工夫されている。

次点は、「大日本図書」である。

【質疑応答】

〇委員

各社ともＱＲコードを多く掲載し、個別最適な学習に対応できるように構成されているが、「教育出版」の教科書はその点に対応できるか。

〇選定委員

各社とも多くの場面でＱＲコードを掲載し、タブレット端末で動画や写真にリンクできるようになっている。これはまさに個別最適な学習に対応するためのものと考えられる。他社では、実験や観察の方法、実験結果までＱＲコードで教科書の内容を補足しているが、「教育出版」では、主に動きがあるものや発展の内容、実験器具の使い方等にＱＲコードが精選されている。併せて、教科書上の「科学のまど」や「チャレンジ」という発展的な内容の資料も豊富であるため、個人の興味・関心に応じて個別に学習を深めることや学習の個性化を図ることが十分可能であると考えられる。他社よりも少ないというだけで、教科書の紙面の中に十分な情報が込められており、教科書を有効に活用できるということが期待される。

〇委員

学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力との関わりについて、「教育出版」が

他社よりも本市にふさわしいと考えるのは、「考え方のカギ」「見方のカギ」が強調されていることのほかにあるか。

○選定委員

理科において資質・能力を育成するためには、理科の見方・考え方を働かせることが重要になってくる。そのうち「理科の考え方」とは、比較したり、関係づけたり、条件を制御したり、考察したりすることになる。

「教育出版」の教科書は、「見つけよう→問題→予想しよう→計画しよう→実験→結果→結果から考えよう→結論」というように問題解決の過程を丁寧に位置づけ、そこに「○年のチカラ」と各学年で大切にしたい「理科の考え方」を強調し意識づけている。具体的には、３年生は「見つけよう」、４年生は「予想しよう」、５年生は「計画しよう」、６年生は「結果から考えよう」が強調されている。

○教育長

理科については、第一順位「教育出版」、次点「大日本図書」との推薦があった。

これらを参考に採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

【１０分間休憩】

○教育長

次に、生活について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、７社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「信州教育出版」、「光村図書」、「啓林館」のうち、「東京書籍」と「教育出版」の２社を推薦する。

「東京書籍」は、目指す育成すべき資質・能力、活動の「めあて」、主な評価規準、生活科の見方・考え方を生かしている児童の姿を具体的に例示している。

登場するイラストの人物を統一し、児童がその人物の成長の様子を見届けたり、活動の様子を振り返ったりすることができるようにしている。

資料については、６９１点の豊富なＱＲコンテンツを備えており、環境構成例や授業で使える資料、板書や発問例、授業づくりのヒントを掲載するなど、教員支援に役立つ内容も含まれている。

紙面の構成は、単元名、本文、マークなどの記載位置を揃え、レイアウトを統一するなどして、ユニバーサルデザインを意識したものとなっている。

また、見開き構成を有効に使っていて、活動写真は見やすく、魅力的かつダイナミックで、活動のイメージ化、児童の意欲の喚起を促す。

他教科等とのつながりの面では、他教科で身に付けた資質・能力を学習の中で生かす場面を例示したり、中学年以降の教科へのつながりをイメージできるよう、コーナーを設置したりするなどして工夫している。中でも、幼児期の育ちを生かしながら教科等への学びへと円滑に接続できるよう専門ページを設け家庭と連携を図る、又は教科の理解を得ることに活用することができる。

「教育出版」は、生活科における知識・技能を身に付けることができるよう、活動に必要な「やくそく」等が教科書の巻末に「学びのポケット」としてまとめられている。必要な時に繰り返し見て学ぶことができるので、しっかりと習得することができる構成になっている。

また、導入での「わくわくスイッチ」や「かんがえまとめいろ」、振り返りでの「ぐんぐんはしご」等を活用することで児童の思考が可視化され、主体的な学びを展開することができるようになっている。

「新熊谷プロジェクト」の関わりとしては、巻末にまとめられている「学びのポケット」の内容は、各教科との関わりが明確にされており、生活科で身に付けた知識や技能が他教科の授業の中で活用しやすくなっている。教師支援の部分も多く、活動をまとめる際の表現方法、板書や児童への声掛けなどが多数載せられており、授業を進める際のヒントとなる点も多いと考えられる。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は「東京書籍」で、現在使用している教科書であるとともに、豊富な資料により児童の「知りたい」に応える内容になっていることや、紙面が見やすいことから、全ての児童に分かりやすい作りになっているためである。

次点は、「教育出版」である。

【質疑応答】

○委員

ＱＲコンテンツが豊富なことから、東京書籍の教科書が良いとの説明があったが、豊富なことで生じるメリットは何か。

○選定委員

児童の興味や関心を引き出すことができ、また、児童一人一人の興味や関心に合わせ、それに応え、高めることができる。ＱＲコンテンツを充実させることで、紙面への掲載内容を厳選し、それにより、ユニバーサルデザインを意識したシンプルな紙面構成とすることができ、全ての児童にとって分かりやすい教科書となり、近年懸案となっている教科書重量の軽量化も実現している。

○委員

「新熊谷プロジェクト」との関わりとして、他教科とのつながりを視点としたときに、最も配慮されている教科書はどれか。

○選定委員

いずれの教科書も幼保から中学年以降も含めた他教科とのつながりについては、考慮されているが、中でも「東京書籍」は、他教科等で身に付けた資質・能力を生活科の学習の中で生かす場面を具体的に提示し、児童にその自覚を促すだけでなく、教員の支援という側面も持ち合わせている。上巻の冒頭には、「スタートガイド」というスタートカリキュラム期に対応した特設ページが設けられていて、そこには、幼保から生活科への学びのつながりが明示されており、また、保護者向けのメッセージも記載されている。児童も保護者も、学びのつながりや生活科という教科そのものを知ることができるようになっている。

○教育長

生活については、第一順位「東京書籍」、次点「教育出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、音楽について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、２社ある「教育出版」、「教育芸術社」のうち、「教育芸術社」と「教育出版」の２社を推薦する。

「教育芸術社」は、音楽科の目標を踏まえた題材、教材で配列され、大きく１０の題材を通して、「『音楽の何を身に付けさせるのか』〔共通事項〕」が明確に示されている。題材それぞれには、歌唱、器楽といった表現活動に加え、鑑賞の活動が明確に位置づけられており、音楽を形作っている要素を核とし、表現と鑑賞の関連を図った内容構成が工夫されている。一つの単元にねらいと関連する数曲が配置されており、児童が教科書に沿って学習の振り返りや自学ができる。

特徴的な表記、表現としては、写真やイラストだけでなく、楽曲に対する子供たちの理解、知覚が深まるように、発達の段階に応じた図形絵譜等も多く掲載され、音楽の旋律や音色、リズム等の特徴を「見える化」している。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、虫、花、動物など、子供たちの身の回りの音をテーマにした音楽を生活科の学習と関連させ、歌い継がれている民謡や「越天楽」等の原点は、水産業や農業、歴史と強く密接していることから、社会科の学習と関連させたりすることが可能であり、教科横断的な学びが工夫できる。

また、地域や郷土に伝わる伝統音楽、日本の音楽、和楽器の音色や響きの特徴や良さを感じ取る学習は、熊谷教育が掲げる「郷土愛の醸成」にもつなげやすいものと考える。

「教育出版」は、表現や鑑賞といった領域、分野ごとに大きく８つの題材が設定され、学習の「めあて」や音楽を形作っている要素を見開きごとに示している。歌唱では児童の発達の段階を踏まえ、音域や音の長さ、歌詞の内容等に配慮した教材、器楽では写真等を用いて、１音ずつ確実に学び進められるような紙面上の工夫、鑑賞曲では楽譜を掲載し、楽曲の構成（音楽のつくり）が理解しやすい配慮などがされている。

特徴的な表記、表現としては、巻末にある「音楽を表すいろいろな言葉」のページで、「軽やかな」や「ゆったりとした」、「旋律が繰り返されている」など、児童が音楽から感じ取ったことを自分の言葉で表すことができるようにヒントワードが多く示されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、日常生活の中にある様々な音・音楽への関心を促す教材や特集ページのほか、１年生「おおきなかぶ」の音楽劇、２年生、３年生では「かけ算の歌」や「単位の歌」など、国語や算数と関連した学習できるように、教科横断的な意図が読み取れる。

本市にふさわしいと思われる教科書は、「教育芸術社」で、現在使用されている教科書であるとともに、目標を踏まえた題材、教材で配列され、大きく１０の題材を通して、「『音楽の何を身に付けさせるのか』〔共通事項〕」が明確に示されている。

また、歌唱、器楽といった表現活動に加え、鑑賞の活動が明確に位置づけられており、音楽を形作っている要素を核とし、表現と鑑賞の関連を図った内容構成が工夫されているからである。

次点は、「教育出版」である。

【質疑応答】

〇委員

本市の教員が指導しやすいとの説明があったが、なぜか。

〇選定委員

本市小学校のほとんどが、授業を音楽専科ではなく学級担任が行っているため、題材における活動の流れや、児童に学習の見通しを持たせ、音楽を知覚・感受させたりする視点が分かりやすく示されている「教育芸術社」は、どの教員が授業を行っても、指導の差が大きく出ないものと考える。

〇委員

カリキュラム・マネジメントがしやすい理由は何か。

〇選定委員

「教育芸術社」の教科書は、低・中・高学年の２学年がほぼ同じ題材名で構成されているため、旋律やリズム、音の重なりといった音楽を形作っている要素、つまり題材での学習内容は同じであることから、２学年間を見通し、扱う教材を教科書から精選し、創意工夫ある指導計画の作成がしやすいからである。

○教育長

音楽については、第一順位「教育芸術社」、次点「教育出版」との推薦があった。これらを参考に採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、図工について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「開隆堂」、「日本文教出版」のうち、「日本文教出版」、「開隆堂」の２社を推薦する。

「日本文教出版」は、学習指導要領が目指す育成すべき能力として「ためす、見つける」で明記してあり、資質・能力の３つの柱に基づいた設定がされている。

また、各題材に学習の「めあて」を載せてあり、「くふうする」、「考える」、「楽しむ」等の表記により、ねらいをしっかりつかませている。

教科書の題材名では、参考となる児童作品は、別な題材名が設定されていると想像でき、教師が自分で題材を作ることに参考になっている。「材料と用具のひきだし」は、教師が指導するポイントが絞られている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりとしては、各教科のつながりについて、題材を通して表記しており、「つながる学び」の奇数ページ下を見れば分かるようになっているため、やりたいことができる視点で作られている。

「開隆堂」は、学習の「めあて」振り返りを楽しいキャラクターで表示し、そのキャラクターが育てたい三つの資質・能力であり、学習のヒントを投げかけている。

製作の手順が親切な教科書で活動が具体的に示されており、身近なものから題材が導入されていて必要な材料が載っており、参考のページへ示唆されている。

共同製作の題材が多く、ねんど題材が各学年２～５題材あり、用意する材料が細かく記載されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりとしては、「つながるぞうけい」として、教科横断的な視点で学校生活、各教科との関連を載せている。そして、題材ごとに関連する教科と学びを載せている。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は、「日本文教出版」で、現在使用している教科書であり、本市が進める教科横断的でオーセンティックな学びの実現につながる教科横断的な視点、そして扱われている資料や写真を比較した時に、リアル感や子供の活動イメージの構成がよくできている。

次点は、「開隆堂」である。

【質疑応答】

○委員

同じような題材で、比較できるものがあるか。

○選定委員

「開隆堂」の５、６年上２４ページの「見つけてワイヤーワールド（工作)」と「日本文教出版」の５、　６年上２６ページにある「美しく立つはり金（立体　鑑賞)」は、どちらも針金を扱う題材であるが、教科書会社によって工作と立体、鑑賞という位置づけに違いがある。

「日本文教出版」は、どの題材においても鑑賞が意識され、使われている写真は背景の色を黒くし針金の特徴をよく出している。また、子供の活動場面で、子供の活動の一瞬を捉えており、「開隆堂」は、指示があっての写真になっていると考える。

また、題材名から、「日本文教出版」の教科は、美しく立たせるという課題が明確なので、子供がバランスなどを工夫しながら活動しやすいと考える。「開隆堂」のワイヤーワールドでは、土台を意識させることで、ワールドとはしながらも子供たちの発想に縛りが出てしまうと考える。

○委員

先生方による会議で、両社の決定的な違いはどこにあったのか。

○選定委員

まず、題材について、意欲的に図工の授業を進めていきたいという先生は、「日本文教出版」の教科書が、どちらかというと指導に自信がなくてという先生には「開隆堂」が適していると考える。

一部において、「日本文教出版」は、教師に題材を少し工夫させる意図が見え、そのアレンジをしたものが参考作品として載っている。「開隆堂」は、題材をそのまま使い、参考作品も同様であることから、先生方の授業力の向上を考えると「日本文教出版」のほうが良いと考えた。

また、文末にて「材料と用具のひきだし」と「学びの資料」で用具や材料の扱いについて触れているが、「日本文教出版」の方が、丁寧なことと、これはやってはいけないこととの注意がしっかりしており、学習の「めあて」が、「くりかえして」、「見通しをもって」など具体的になっていると考える。

「開隆堂」では、児童の平面の参考作品に、黒い線で囲んである点に違和感が残り、写真の背景の色や配置の仕方、擬声語が効果的ではないと考えた。

○教育長

図工については、第一順位「日本文教出版」、次点「開隆堂」との推薦があった。

これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、家庭科について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、２社ある「東京書籍」、「開隆堂」のうち、「開隆堂」、「東京書籍」の２社を推薦する。

「開隆堂」は、学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力との関わりについて、学びに向かう力・人間性を涵養するため、学習内容をつかむための写真やイラストに合わせて、問いかけの一文があり、課題を見つけやすくするとともに自分の課題を設定しやすくなっている。

また、「学んだことを自分ごととして身に付ける工夫をしている点」、「基礎的・基本的な学習をスモールステップで積み重ね、着実に知識・技能を身に付けられる構成を図っている点」、「様々な課題に向き合い、多様な視点を学習に取り入れ、生活に生かそうとしている点」は、学習指導要領が示す方向性に合致している。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、「気づく・見つける、わかる・できる、生かす・深める」学習過程を繰り返す構成となっており、生活を「自分のこと」として捉える意識を持たせ、自分自身の課題を見つけ、見通しを持った課題解決型学習を進められるようしている。

また、キャリアインタビューを掲載し、各題材中の生活に関わる様々なキャリアの方の内容を掲載することで、学んだ事が将来どのように生かされているか、興味関心を高めることができ、このことは、「本物の実践に可能な限り近づけた授業を展開し、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の汎用的能力の育成」に向けて、一人一人の力を伸ばすことに大きく貢献するものと考える。

また、他教科との関連が分かりやすくなっていることで、教科横断的にカリキュラムを編成することができ、ますますオーセンティックな授業を実践することにつなげ、教師の指導にも生かすことができると考える。

「東京書籍」は、学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力との関わりについて、思考力・判断力・表現力を育成するため、「考える調理実習」を意識した題材を取り入れ、手順や切り方など、「どうして」と問い、生活を工夫する力を身に付ける工夫をしている。ＱＲコードからトライシートを活用して、思考を可視化し、児童同士が共通点を見つけながら、集中して考える工夫もある。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、５年生でSDGsの特設ページを設け、児童が早い段階で、SDGsを意識した生活できる工夫をし、家庭科で学んだ事を実践に生かすことを意識して作られている。

また、他教科との関連もマークを使用して分かりやすくしており、カリキュラム作成の参考にすることができ、教科横断的な学びに取り組みやすくしている。

本市で最もふさわしいと思われる教科書は、「開隆堂」で、現在使用している教科書であるとともに、学習内容をつかむための写真やイラストに合わせて、問いかけの一文があり、課題を見つけやすくするとともに自分の課題を設定しやすくなっている。生活を「自分のこと」として捉える意識を持たせ、自分自身の課題を見つけ、見通しを持った課題解決型学習を進められるようしている。

次点は、「東京書籍」である。

【質疑応答】

○委員

それぞれの教科書は、学習指導要領解説にある家庭科の目標に沿った学習内容を身に付けるために、どのような工夫をしているか。

○選定委員

それぞれ教科書は、２年間のつながりが分かりやすく、系統性の工夫がされている。「開隆堂」は、「東京書籍」よりも単元の数が多くなっており、スモールステップで無理なく学ぶ構成になっている。

「東京書籍」は、単元数を少なくすることで、それぞれの単元に時間をかけて学ぶ構成になっている。

○委員

「新熊谷プロジェクト」で、本物の実践に可能な限り近づけた授業、いわゆるオーセンティックな授業を実践し、汎用的能力を育成するとあるが、どちらの教科書でも、その実践が可能か。

○選定委員

どちらの教科書も、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育み、汎用的能力を育成するための内容構成となっており、教科横断的なカリキュラムを編成することができる工夫がされている。

また、どちらの教科書も、写真やイラストを活用しながら、児童の思考に合わせて、自ら課題を設定できる工夫をしている。

中でも、「開隆堂」は、自分自身の生活を見つめることを出発点として、分かり・できるようになり、身に付けた知識・技能を自らの生活に生かし、深めていくという学習過程のステップで構成されているなど、各単元で何を学ぶのかが端的に示されている。

○教育長

家庭科については、第一順位「開隆堂」、次点「東京書籍」との推薦があった。

これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、体育について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、６社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「大修館」、「文教社」、「光文書院」、「学研」のうち、「東京書籍」、「大修館」の２社を推薦する。

それぞれ主な特徴として６点を説明すると、「東京書籍」は、１点目に、１単位時間における学習の流れが４つのステップで構成されており、主体的な学習が進められるような配慮がなされていること。２点目に、ページ構成については、導入が１ページ、学習内容が見開き２ページ、まとめが１ページの合計４ページで授業が展開できるよう割り付けられ、大変見やすくなっており、主体的・対話的で深い学びを実現するためのプロセスと学習方法の工夫がなされている。３点目に、新熊谷プロジェクトとの関わりについては、他教科の学習内容との関連が各章の冒頭と各項目に記されていること、他学年で学んだ保健学習の内容との関連が記されており、系統性のある指導ができるよう配慮されている。４点目に、資料やそれに付随するＱＲコードが豊富に用意されており、関連する情報をすぐにタブレットで読み取れるようになっている。５点目に、学習指導要領で「触れるようにする」と記された、発展的な内容が充実しており、現代的な課題にも十分対応している。６点目に、学習指導要領の内容が習得できたか、を評価できるような書き込み欄が設けてある。

「大修館」は、１点目に、１単位時間における学習の流れが、３つのステップで構成されており、主体的な学習が進められるような配慮がなされている。２点目に、全体的な構成がシンプルで、ゆとりを持った学習活動が展開できるよう、使いやすい教科書の作りになっている。３点目に、新熊谷プロジェクトとの関わりについては、他教科の学習内容との関連が各項にマークが記されている。４点目に、著名人と教科書上のキャラクターとの対話の中で、健康や安全について取り上げられている。５点目に、新型コロナウイルスやゲーム・スマホ依存、ＩＣＴと健康など、子供たちにとって身近な健康課題を取り上げた資料が豊富である。６点目に、学習指導要領に「触れるようにする」と記された内容は「はってん」と示して取り上げている。

本市に最もふさわしい教科書は、「東京書籍」で、現在使用している教科書であるとともに、新熊谷プロジェクトの「教科横断的な視点」から、他教科の学習内容との関連が各章の冒頭に一覧で掲載されているとともに、該当する箇所にも記されており、カリキュラム・マネジメントを行う際に６社の中で一番参考になると考える。

また、他学年で学んだ保健学習の内容についても記され、系統性のある指導ができるような配慮もなされている。

次点は、「大修館」である。

【質疑応答】

○委員

「学力日本一」を目指す本市として、「東京書籍」の教科書を使うことで、学習指導要領で求められている資質・能力が身に付くのか。

○選定委員

「東京書籍」の教科書では、１単位時間の学習の流れを４つのステップとしている。ステップ１の「気づく・見つける」では、大きな写真やイラストを示しながら、身近な生活や自分の経験を振り返って考えさせることで、課題を自分事として捉え意欲を持って学習に入っていけるようにしている。ステップ２の「調べる・解決する」では、課題の解決に向けて資料を基に調べたり、考えたりし、本時で学ぶべき学習内容が太字で記されており明確になっている。ステップ３の「深める・伝える」では、身近な場面でケーススタディ的に考えて説明できるようにし、それまでの学習を活用できるようにしている。ステップ４の「まとめる・生かす」では、学習した事を穴埋め式に整理させ、基礎的・基本的な内容を確実に習得できるように工夫されている。毎時間の最後には、「次の時間は」と、次時の学習内容について予告したり、次時までに考えておくとよい事を投げかけたりすることで、主体的に学びに向かっていけるようにしている。よって、本市の目指す「学力日本一」に向けて、一人一人の児童の学力向上に大きく貢献すると考える。

○委員

「東京書籍」の教科書は、情報や資料が大変豊富ということだが、逆に情報が多すぎることで教師や児童が使いこなせずに困ることはないのか。

○選定委員

効果的なグラフや写真、挿絵、漫画、キャラクターの吹き出し等を豊富に掲載することは、児童の理解を広げたり、深めたりするために大いに役立つと考える。４つのステップの構成が明確なために、資料が多くても混乱させることは少なく、教師が資料を選択しながら、学習場面ごとに効果的に授業に活用することができると考える。

また、家庭に持ち帰り、自主学習に活用する等、他教科との関連をしっかりと示している。「東京書籍」の特徴を生かし、他教科においても活用したりすることで、深い学びにつなげることもできると考える。さらに、ＱＲコードについては、東京書籍は９４個と他社を大きく上回るほど用意されているため、授業の時間内はもとより、家庭においても「一人一台タブレット」を使って「個別最適な学び」に迫ることができると考える。これらの理由からも、情報や資料が豊かなことは、効果的な学習につながっていくと考える。

○教育長

体育については、第一順位「東京書籍」、次点「大修館」との推薦があった。

これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

次に、外国語英語について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、６社ある「東京書籍」、「開隆堂」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書」、「啓林館」のうち、「光村図書」、「開隆堂」の２社を推薦する。

「光村図書」は、「知識・技能を習得するため」に、ストーリーを通して学習する表現に気付くところから始まり、聞く活動、話す活動、読む・書く活動と、スモールステップを踏んだ活動が組まれている。「思考力・判断力・表現力を育成するため」に、聞く・話す活動で、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じた活動になるよう指示文を工夫している。

また、読む・書く活動は、段階を踏んで無理なく学べるよう工夫しており、「学びに向かう力・人間性を涵養するため」に、「Let's watch and think」や世界の友達では、１２か国の小学生が登場することで、各国の文化の違いや共通点を見出すことができるよう工夫されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、生活に基づいた学習内容であるとともに、他教科との関連や防災教育、SDGs との関連についても工夫されている。

「開隆堂」は、「知識・技能を習得するため」に、音声で十分に慣れ親しんだ英語と文字を結び付ける活動を行う「Let's Listen and Read」が用意されており、音声から文字への学習が円滑に接続するよう工夫されている。「思考力・判断力・表現力を育成するため」に、英語を使用して互いの考えや気持ちなどを伝え合う言語活動が豊富に用意されている。

また、「学びに向かう力・人間性を涵養するため」に、自分の成長や課題を確かめながら学習に取り組めるようになっている。各単元の「Around the World」では、世界の文化について考えたり知ったりする学習内容が設定され、視野を広げられるようになっている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、SDGs について考えるきっかけとなる物語を掲載する等、「英語を使いながら学ぶ」学習を実現するための言語活動が豊富に用意されている。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は、「光村図書」で、現在使用している教科書であり、ストーリー性を重視している。熊谷市が「英語」の学習において採用しているラウンド制は、ストーリー性があるからこそ飽きずに教科書の内容を繰り返し学ぶことができ、繰り返すことができるからこそストーリーへの新たな気づきや発見、そして、言葉の獲得にも効果的である。

次点は、「開隆堂」である。

【質疑応答】

〇委員

熊谷市が推進しているラウンド制の観点から、「光村図書」が一番良いと言える点はどこか。

〇選定委員

「光村図書」の教科書内容の良い点は、物語のようなストーリー性が豊かであり、適切に取り入れられている点であると考える。幼児が日本語を獲得する過程において、同じ本を何度も読み、内容や語彙が膨らみ、登場人物の気持ちや行間を読む等、漆塗りのように言葉を獲得していくように、ラウンド授業における重要な「繰り返しても飽きない」ストーリーが教科書にある点において一番良いと考えた。

〇委員

「聞く・話す活動」における活動をはじめ、外国語の授業における様々な活動でデジタル教科書の果たす役割は大きいと思うが、その点で、良いと思われる教科書はどれか。

〇選定委員

「光村図書」のデジタル教科書は、授業のみならず、家庭での学習をサポートする「自習コーナー」を設けるなど、自分のペースで学習することにも対応していて、速度調整機能を初め、児童の実態に応じた個別の設定が可能で、学習を進める上での心配を軽減してくれる。また、字幕を取ったり、付けたりすることもでき、状況に応じた使い方もできる。さらに、児童用のデジタル教科書をタブレットに落とすことができ、個別最適な学びの観点からも使い勝手が良く、小学校英語の授業で、ラウンド制のエッセンスを生かすときのポイントを紹介するなど、まさに、全学年、全教科でラウンドシステムの考え方を実践している熊谷市の目指すところに通じる点でも「光村図書」が良いと考える。

〇教育長

外国語英語については、第一順位「光村図書」、次点「開隆堂」との推薦があった。

これらを参考に、採決することでよいか。

〇委員一同

異議なし。

〇教育長

次に、道徳について説明を求める。

〇選定委員

選定委員会としては、６社ある「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書」、「日本文教出版」、「光文書院」、「学研」のうち、「東京書籍」、「学研」の２社を推薦する。

「東京書籍」の主な特徴を７点挙げると、１点目に、ＱＲコードを読み取って使えるデジタルコンテンツの「心メーター」と「デジタルノート」が全学年で利用できるとともに、４年生以降は、切って使える「心情円」も付録として用意されている。２点目に、個別最適な学びを実現するコンテンツが３点、朗読音声、スライドショーや紙芝居、デジタルノートが全ての教材に用意されており、子供の個性に合わせて、教材提示方法を選択できる。３点目に、資料の内容としては、現代的な課題を自分事として考えられる教材を多く掲載し、多様化する社会を生きていく力を養えるように考えられている。４点目に、道徳的価値に迫りやすい場面の挿絵が昨年度と比べ追加されていたり、児童の考えを誘導しない表現に改められていたり、子供たちが教材の世界にスムーズに入れるような工夫がされている。５点目に、２年生から６年生では、「情報モラル」に関するものが夏休み前に配置され、ＩＣＴ端末の活用が家庭でも役立てられるようになっている。６点目に、家庭でも親子で考えられるような動画が用意されている。７点目に、３年生には、荻野吟子の資料が４コマ漫画として掲載されており、発達段階を考えた工夫だと考える。

次に、「学研」の主な特徴を６点挙げると、１点目に、巻頭にオリエンテーションページを設け、児童の発達段階に応じて、道徳科の学習の意義や学び方を分かりやすく示している。２点目に、各学年には自己を見つめるページが設けられており、今の自分について見つめることができるようになっている。３点目に、教材名が書かれてある下の部分に、それぞれのテーマに基づいた分かりやすい「めあて」が掲載されており、ねらいに対して迷うことなく、授業を組み立てることができるようになっている。４点目に、教材ごとに「考えよう」を設置し、自発的な思考を引き出そうと配慮しているので、より道徳的価値を深めることができる。５点目に、「深めよう」を設置し、今の自分を見つめたり、考えをグループやクラスで話し合ったりすることができるようになっている。６点目に、５年生には、「女性が医師になれる社会へ　荻野吟子」の資料を掲載している。

本市に最もふさわしいと思われる教科書は、「東京書籍」で、現在使用している教科書であるとともに、熊谷が目指している「道徳の見える化」の考え方に、最も近いものと感じる。例えば、ＱＲコードを読み取れば、すぐに使えるデジタルコンテンツ「心メーター」や「デジタルノート」が全学年で利用できること、また４年生以降は、切って使える「心情円」も付録に用意されているので、デジタルでもアナログでも状況に応じて選ぶことができる。

また、価値に迫りやすい場面の挿絵が追加され、児童が挿絵を見て考えることができるように修正され、よく考えられており、子供たちが教材の世界にスムーズに入れるように、可視化の工夫がされている点である。

【質疑応答】

○委員

「東京書籍」にある心情メーターは、どんな目的で、どのような場面で活用されるのか。

○選定委員

熊谷市の「道徳の見える化」の工夫として、心の気持ちを色で表す教材として使用するものである。「青」と「ピンク」で、悲しい気持ちや辛い気持ち、嬉しい気持ち、楽しい気持ち等を、主人公を自分自身に重ね合わせて表現し、発表が苦手な児童生徒でも簡単に表現できるものである。

○委員

「学研」と「東京書籍」の荻野吟子の資料の違いは何か。

○選定委員

「学研」の荻野吟子は「女性が医師になれる社会へ」という資料文で、「東京書籍」は、「医者をめざした女性」というテーマの４コマ漫画である。発達段階を考慮して、こんな偉人が熊谷市にはいたのだという、興味を持つきっかけづくりになると考える。

なお、荻野吟子については、県独自の資料「彩の国道徳　夢に向かって」を、全小学校５年生の４月末に取り扱うことになっているため、特に問題はないと考える。

○教育長

道徳については、第一順位「東京書籍」、次点「学研」との推薦があった。

これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし。

※　選定委員会委員及び傍聴人退出に休憩をはさみ再開

※　採決については非公開

【「議案第３４号　令和５年度使用小学校用教科書（特別の教科　道徳を含む）の採択について」の採決結果】

国語、教育出版株式会社
書写、教育出版株式会社
社会、東京書籍株式会社
地図、株式会社帝国書院
算数、東京書籍株式会社
理科、教育出版株式会社
生活、東京書籍株式会社
音楽、株式会社教育芸術社
図工、日本文教出版株式会社
家庭、開隆堂出版株式会社
体育、東京書籍株式会社
外国語、光村図書出版株式会社
道徳、東京書籍株式会社

教育長の宣言により、令和５年７月臨時熊谷市教育委員会を閉会した。

（１１時００分　閉会）

署名　　教育長　　野原　晃

委　員　　小林　敏宏